

II 国語

正答表並びに採点上の注意

(令和六年度)

問三								
(ケ)	(ク)	(キ)	(カ)	(オ)	(エ)	(ウ)	(イ)	(ア)
3	2	2	1	4	1	4	2	1
4点	4点	4点	4点	4点	4点	2点	2点	2点

問二					
(カ)	(オ)	(エ)	(ウ)	(イ)	(ア)
4	4	1	2	3	3
4点	4点	4点	4点	4点	4点

問一								
(ウ)	(イ)				(ア)			
	d	c	b	a	d	c	b	a
1	3	2	4	1	2	4	4	3
4点	2点	2点	2点	2点	2点	2点	2点	2点

問五	
(イ)	(ア)
<p>人が人間が自分 で何かを達 成するため の、手助けと し、人間の間 の偶有性が確 保される</p> <p>AIなどの情報技 術を、</p> <p>35 のように使うことを 心がけるべきだ。</p>	3
6点	4点

(イ)は正答例。

問四			
(エ)	(ウ)	(イ)	(ア)
3	4	2	1
4点	4点	4点	4点

採点上の注意

【問題全般について】

- 中間点は、問五(イ)以外には設けないこと。
- 疑問点は複数の採点者及び点検者によって判断し、校内で統一すること。
- 誤字・脱字（指定語句及び句読点に係る誤りを含む）の判断については、校内で統一すること。

【中間点のある記述問題について】

- 正答例以外であっても、与えられた条件をすべて満たし、問題の趣旨に即した文ならば、正答として六点を与える。
- 内容については、中間点を設けないこと。
- 誤字・脱字（指定語句及び句読点に係る誤りを含む）については、その数にかかわらず二点減点とする。
- 表現に問題があり、それによって明らかに問題の趣旨から外れている、内容を読みとることができない等の場合は、誤答とする。ただし、許容できると判断した場合は、その数にかかわらず二点減点とする。表現の問題については、複数の採点者及び点検者によって判断し、校内で統一すること。
- 中間点は、誤字・脱字（指定語句及び句読点に係る誤りを含む）がある場合と、表現に問題がある場合の減点以外は設けないこと。したがって、中間点は四点または二点となる。
- 指定語句がある場合、その語句が含まれていない解答は誤答とする。

○ 問五(イ)について

・ 指定語句は「手助け」と「偶有性」である。

得点項目A 内容については、次の二点に触れていること。

- あ 「(人間が) 自分で何かを達成する手助けとすること。」
- い 「(人間の) 偶有性が確保される」こと。

〈正答例〉

AIなどの情報技術を、

自分で何かを成し遂げる際の**手助け**とし、人間の持つ…**偶有性**が失われないように使うことを心がけるべきだ。

25

35

AIなどの情報技術を、

偶有性が保たれるように用いるとともに、人間が物事…を達成する**手助け**となるように使うことを心がけるべきだ。

25

35
